

北の道先案内人 とがし遊魚がいく!

鮎温泉食の旅

まともな水管理ができない行政とはなんぞや?

2007年も早いもので、もう師走で、カレンダーも一枚となってしまいました。秋田の冬を知らせるハタハタ漁も、例年よりも幾分早くも水揚げされており、これから海が荒れ荒れとなると本番をむかえます。ハタハタを漢字では魚偏に言「鮎」と書きます。秋田では、ハタハタ鍋とかハタハタ寿司とかで、冬の時事には欠かせないお料理ですね。

今年の冬は降雪量がぜんぜん少なくて、除雪労働もなく、助かった冬でしたが、長期予報によると今年の冬



今年は「怪盗ルパン」の被害で、放流量が少なく、今回は24~30cmのビチビチギヤル主体だよ！来年は、絶対大丈夫との業者さんの言葉を信じてます。自然には逆らえないよね。海老沼さんのヘラブナは、長寸はないのだが、体高と病気に強いのが最大の魅力です。



へらキチさんの「冬の社交場：ザ、遊魚池」。これから来年の雪解けまでテントの花が咲きます。

は例年並みとか。ところが、自然界のお知らせでは「カマキリの巣が地上スレスレにある」ということは、積雪が少ないはずなのだが、一方では「カメムシが異常発生」の時は大雪ともいわれており、果たしてこの決はどっちに重配があるのでしょうか。

10月のある日に津軽の釣友木村氏より、衝撃的な電話が飛び込んできました。

「津軽富士見湖で、岸边数百メートルにわたたり、ヘラブナやソウギョ、

コイなどの死骸が池に浮かんでる」とのことでした。僕は見てみませんでした。全国版「ニュース」でも放映され、紀州のこま島さんから電話がありました。

原因は、取水塔の補修工事で水位を下げてしまい、「酸欠が原因」との可能性が高く、「ここを管理している土地改良区は、沢の水が常に一定量流水が確保されており、まさか死ぬとは思わなかった」そうです。同改良区では、「放水を停止して、これ以上に魚が死なないようにしない



小倉温泉より数分の地にある、レストラン「やまゆり」は美味しいですよ。これからの季節一番のお薦め品は、この町が発祥の地「だまご鍋」でしょうね。ラーメンもなかなかのお味だよ。レストランの隣は地元で採れた新鮮な野菜・山の幸の直売所があります。



遊魚池より、車で15分、悠紀の里「五城目町」にある【小倉温泉】ツルツルする湯が特徴で、お湯から上がっても身体全体がスベスベだよ。特に、女性には美しくなるから「美人湯」かもね。

がら、工事をしたい」ということ。津軽の土地改良区は優しいですよ。

我が秋田の行政でも見習ってもらいたいものです。秋田では「外来魚駆除」とかで税金を使い、今年も数カ所の堤や沼の放水で、外来魚だけでなく在来種も...

また、八郎漏の水汚染は「魚が泥を濁すのも原因」とかで、ブラックバス・フナ・コイを捕り、それらを肥料に利用するとかで実施されています。皆さん、このこと信じられますか？ 本当ですよ。

あの日本一汚染度の高かった「千葉の手賀沼」では、横根根川から水を取り入れて循環作用が始まってからは、汚染度も改良され今ではサケが遡上するほど綺麗になったと聞かされております。

昔、八郎漏湖岸一帯が葎で覆われており、金魚藻や蔦藻もいっぱいでしたが、ソウギョにより葎も水草も壊滅状態となってるのが現状です。干拓前は透明度も高く、夏場は泳いでたもんです。また、その頃は汽水湖だったから漁類も60種もいたようです。現在は何種類の魚がいるので

しょうか。

果たして、魚達がそんなに泥を濁すのでしょうか。何処かの学者の意見のようです。水も大切、魚類も大切なはずなのだがね！葎や水草を増やすことが一番だと思うのだが、行政のやることは全く理解できません。

おっと、愚痴ってばかりもいられませんね。今期の新へら放流ですが、当店の「遊魚池」を始め、湯沢市の「釣堀」、大仙市の「釣堀・玉川レジャーランド」、湯沢大台公園、羽根川ダム、森岳惣三郎沼へ、今回はビチビチギヤルが相馬から嫁入りしましたよ。

養殖業者さん、鵜の被害で大ピンチ！網揚げしたら、魚の量が激減！鵜対策を施してるようですが、鵜も学習能力も抜群とかで、お手上げ状態とか。でも今度は書鳥指定にされ駆除ができるそうです。被害は食い止められるようです。その鵜ですが、秋田県にも出没してるところで、こまったもんです。